

(資料15) 外部研究評価結果総括表

1. 重点研究プログラム、基盤的な調査研究活動、知的研究基盤の整備 (年度評価)

(1) 5段階評価

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
地球温暖化研究プログラム	3	14	0	0	0	17	4.2
循環型社会研究プログラム	0	15	2	0	0	17	3.9
環境リスク研究プログラム	0	14	2	0	0	16	3.9
アジア自然共生研究プログラム	1	12	3	0	0	16	3.9
資源循環・廃棄物管理研究	0	14	3	0	0	17	3.8
大気圏環境研究	1	14	0	0	0	15	4.1
水圏環境研究	1	13	1	0	0	15	4.0
生物圏環境研究	0	14	0	0	0	14	4.0
スペシメンバンク、メタゲノム、細胞・遺伝子保存	2	12	0	0	0	14	4.1
地球環境モニタリング等	7	7	0	0	0	14	4.5

(2) 評価の方法

外部研究評価委員全員による全体評価により評価を行った。評価に当たっては、評価軸として、①達成度（重点研究プログラム、知的研究基盤の整備）、的確さ（基盤的な調査・研究）及び②質の高さ（重点研究プログラム、基盤的な調査・研究）、貢献度（知的研究基盤の整備）について検討を行い、その結果を踏まえて総合評価を行った。

(3) 評価基準

評価は5段階で行い、それぞれの評価基準は次のとおりである。

5：大変優れている、4：優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る

## 2. 特別研究（事後評価）

### （1）5段階評価

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
身近な交通の見直しによる 環境改善に関する研究	3	3	1	0	0	7	4. 3
環境化学物質の高次機能への 影響を総合的に評価する <i>in vivo</i> モデルの開発と検証	2	6	1	0	0	9	4. 1
鳥類体細胞を用いた子孫個体の 創出	0	8	0	0	0	8	4. 0

### （2）評価の方法

研究内容に関して専門的知見を有する外部研究評価委員による分科会形式で評価を行った。評価に当たっては、評価軸として、①研究目的・目標の達成度、②社会・行政への貢献度、科学技術・学術に対する貢献度（環境問題の解明・解決を含む）について検討を行い、その結果を踏まえて総合評価を行った。

### （3）評価基準

評価は5段階で行い、それぞれの評価基準は次のとおりである。

5：大変優れている、4：優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る

## 3. 中核研究プロジェクト（中間評価）

### （1）5段階評価

#### 地球温暖化研究プログラム

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
温室効果ガスの長期的濃度変動 メカニズムとその地域特性の解明	1	7	0	0	0	8	4. 1
衛星利用による二酸化炭素等の 観測と全球炭素収支分布の推定	1	7	0	0	0	8	4. 1
気候・影響・土地利用モデルの統合 による地球温暖化リスクの評価	2	5	0	0	0	7	4. 3
脱温暖化社会の実現に向けた ビジョンの構築と対策の統合評価	0	7	0	0	0	7	4. 0

### 循環型社会研究プログラム

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
近未来の資源循環システムと 政策・マネジメント手法の設計・ 評価	1	5	1	0	0	7	4. 0
資源性・有害性をもつ物質の循環 管理方策の立案と評価	2	4	1	0	0	7	4. 1
廃棄物系バイオマスの Win-Win 型 資源循環技術の開発	0	4	3	0	0	7	3. 6
国際資源循環を支える適正管理ネ ットワークと技術システムの構築	1	6	0	0	0	7	4. 1

### 環境リスク研究プログラム

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
化学物質曝露に関する複合的要因 の総合解析による曝露評価	0	2	7	0	0	9	3. 2
感受性要因に注目した化学物質の 健康影響評価	0	4	5	0	0	9	3. 4
環境中におけるナノ粒子等の体内 動態と健康影響評価	2	5	2	0	0	9	4. 0
生物多様性と生態系機能の視点に 基づく環境影響評価手法の開発	0	9	0	0	0	9	4. 0

### アジア自然共生研究プログラム

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
アジアの大気環境評価手法の開発	6	2	0	0	0	8	4. 8
東アジアの水・物質循環評価シス テムの開発	0	8	0	0	0	8	4. 0
流域生態系における環境影響評価 手法の開発	0	7	1	0	0	8	3. 9

## (2) 評価の方法

研究内容に関して専門的知見を有する外部研究評価委員による分科会形式で評価を行った。評価に当たっては、評価軸として、①研究計画等に記載された研究目的・目標の達成度及び②社会・行政への貢献度、科学技術・学術に対する貢献度（環境問題の解明・解決を含む）について検討を行い、その結果を踏まえて総合評価を行った。

## (3) 評価基準

評価は5段階で行い、それぞれの評価基準は次のとおりである。

- 5：大変優れており、発展的に推進すべし
- 4：優れており、着実に推進すべし
- 3：普通。必要に応じて計画の見直しを行うべし
- 2：やや劣っており、計画の大幅な修正を要する
- 1：劣っており、研究を中止すべし